

Crown English Communication II, p. 87.

Lesson 6

Ashura —A Statue with Three Faces—

In 2009 an exhibition of Buddhist statues was (1)held in Tokyo, and later in Kyushu. It was a remarkable success, with over 1,650,000 visitors. The most popular feature was the statue with three faces: Ashura.

—1

In Nara Park you can see the Five⁽²⁾-Storied Pagoda of Kofukuji Temple. On the temple grounds is the Kofukuji National Treasure Museum, and this is where you can find one of the best-known Buddhist statues in Japan: Ashura.

Kofukuji Temple was built by the Fujiwara family when Nara became the capital in 710. It was one of the “Four Great Temples” of Nara.

In 734 Empress Komyo established a hall to (3)remember her mother and enshrined 28 statues. Among them are the *Hachibushu*, the protectors of Buddha. There is a story that Ashura was once a cruel warrior, constantly fighting with *Taishakuten*. Later, he woke up to see the truth, (4)repented, and became one of the protectors. From earliest times, people have (5)prayed to the *Hachibushu* for healing and purification.

Lesson 6—Lead

(1) hold ㄆㄚ 5, p. 928.

5 (会議・祭り・裁判・会談など)を開く, 催す, 行う (しばしば受け身で) ▶The competition [meeting] will be held in June. 6月に競技会[会合]は開催されます/hold a press conference 記者会見を開く.

- 教科書本文は目的語である exhibition(展覧会)が主語になった受け身文であることを確かめさせる。動詞の場合, 山形かっこ〈 〉に入れて, 主語や目的語となる名詞の特徴(選択制限)が示されているので確認させる。語義5には「〈会議・祭り・裁判・会談など〉を開く」と記述されており, exhibitionに近い意味を表す名詞が示されていることから語義5に導く。
- (しばしば受け身で)という注記が教科書本文と一致していることを確かめさせる。辞書の第1用例を参照させ, 教科書のこの部分は「仏像の展覧会が開催された」という意味になることを確認させる。

Lesson 6—Section 1

(2) -storied Σ, p. 1863.

-sto-ried, (英) -sto-reyed /stó:rid/ 複合要素 …階建ての ▶a three-storied house 3階建ての家.

- 見出し語のすぐ後に, イギリスで使われる別の綴りが「{英}-storeyed」と示されているのをチェックさせる。
- ハイフン(-)が付いており, 前にある語と結合して意味を成す語には, Σというロゴが示されていることに注意させる。辞書の第1用例を参考に, 教科書本文では「5階建て[五重]の」となることを確認させる。

(3) remember ㄆㄚ 4, p. 1587.

4 (死者)を追悼する, 悼む ▶remember one's war dead 戦死者を悼む.

- 教科書本文では人(her mother)が remember の目的語になっていることを確かめさせる。
- 「光明皇后がその母親を…するため」という文脈に合う意味を探させる。支配者が一族のために建造物を構築するということから語義4の「〈死者〉を追悼する, 悼む」がふさわしいことを確認させる。

(4) repent ㄆㄚ, p. 1592.

re-pent† /ripént/ 動自 (かたく) «過去の行為などを»後悔する; [宗] 懺悔(等)する «of» ▶repent of one's greed 強欲を悔やむ/Marry in haste and repent at leisure. (ことわざ)あわてて結婚, 長く後悔. — 自 …を後悔する.

- 紙の辞書なら remember の数ページ先に出ているので, すぐにチェックさせることができる。教科書本文は repented と単独で使われているので, 自動詞用法であることを確かめさせる。
- {かたく}という表記から格式ばった語であることに注意させ, 意味を確認させる。

(5) pray ㄆㄚ, p. 1481.

pray* /prei/ (prey と同音)
pray* [原義は「(強く)願う」]((名) prayer)
— 動 (〜s /-z/; ~ed /-d/; ~ing)

— 自 (人が) «…のために, …を願って/…に/…のことを» 祈る, (強く)願う «for/to/over» ▶pray for help [A's recovery] 救いを求めて[Aの回復を願って]祈る/pray for the dead 死者に祈りをささげる/pray to God to keep him safe 彼の無事を神に祈る/pray to God for help 救いを求めて神に祈る.

- 教科書本文が have prayed to the Hachibushu for healing and purification と pray の後に to, for を使った句が続いていることを確かめさせ, 自動詞用法に導く。
- 共に使われる前置詞(連語)が二重山形かっこ< >で示されているが, 複数ある場合はスラッシュ(/)を使って併記されているので注意させる。<…のために, …を願って/…に/…のことを>と表現する場合はそれぞれ<for / to / over>を使うと記されていることをチェックさせる。教科書本文では「癒しと浄化を求めて[願って], 八部衆に祈ってきた」となることを確認させる。
- 辞書の第4用例が, 教科書本文と同じく to と for を使った例になっているので確かめさせる。

Crown English Communication II, p. 88.

—2

Through the centuries, many of the buildings and statues at Kofukuji Temple have been destroyed by fire, war, and natural disasters. However, Ashura and the other *Hachibushu* have ⁽¹⁾survived to the present day. One of the reasons for their survival is that they are light and could be easily carried when there was an emergency. Ashura, for instance, is 153 centimeters tall but weighs only about 15 kilograms.

How do ⁽²⁾you make such light statues? First, you make a wooden frame and then you put clay around it. Then you ⁽³⁾wrap it in cloth soaked in ⁽⁴⁾lacquer and let it dry. You repeat this process several times. Next, you remove both the clay and the wood, leaving a light, hollow statue. Lastly, you put a light wooden frame inside for support and add details using wood powder mixed with lacquer. This method, which is called *dakkatsu kanshitsu*

Lesson 6—Section 2

(1) survive ㊦ 1, p. 1901.

sur·vive* /sərváiv/ [sur(越えて) vive(生きる)]
((名) survival)

—動(～s /-z/; ～d /-d/; -viving)

—自 1 〈人・生物が〉生き残る, 助かる; 〈少ない金・食糧などで〉どうかやっていく《on》; 〈物が〉存続[残存]する; [[～ C] 〈人・物が〉C〈無事な状態〉で生き残る (㊦Cは ㊦) ▶Of the 80 passengers, only 4 survived. 乗客80名中, 生存者は4名だけだった/He's still surviving on his poor wages. 彼はわずかな賃金で今でもなんとか生活している/Will this silly custom survive forever? こんなばかげた習慣がいつまでも続くだろうか/survive intact [unscathed] 無事[無傷で]生き残る.

2 《ややくだけて・おどけて》〈人が〉(困難などにもめげず)何とか生きていく ▶“How're you doing?” “Surviving.” 「どう, 調子は」 「何とか生きてるよ」.

- 見出し語横に((名) survival)と記されているのに注意させる。重要な派生語がある場合, ()に入れて品詞と共に記されていることを確かめさせ, 紙の辞書なら survive の2項目上にある survival(教科書本文の次行に出ている)をチェックさせることができる。

sur·viv·al* /sərváiv(ə)l/
[→survive]

—名(㊦) (㊦) (㊦) (㊦) 1 ㊦ 生き残ること, 生存; 存続; [形容詞的に] 生存の; 非常時用の ▶have little chance of survival 生存の可能性がほとんどない/fight [struggle, battle] for survival 生き残りをかけて戦う/(the) survival of the fittest 適者生存 (Darwin の進化論の根底をなす考え)/survival English 最低限度の意思疎通ができる英語.

- 教科書本文では目的語がないので, 自動詞用法を調べさせる。自動詞の場合, 主語にどのような名詞が来るか(選択制限)が山形かっこ 〈 〉に入れて示されているので確かめさせる。語義2は〈人が〉主語になると説明されているが, 教科書本文では「阿修羅像と他の八部衆」が主語なので, 語義1の「〈物が〉存続[残存]する」の意味になることを確認させ, 教科書のこの部分は「阿修羅像と他の八部衆は(破壊されることなく)残ってきた[生き延びた]」となることを理解させる。

(2) you π 5, p. 2208.

5 《話/ややくだけた書》(一般に)人は(誰でも) (㊦) 総称用法; 話し手や相手を含めた一般の人々をさし, 訳さなくてもよいことが多い; → we ㊦ 2 語法 ▶You never can tell what's going to happen. 何が起きるかは誰にもわからない/You can't be happy if you're negative. マイナス思考だと幸せにはなれない.

- まずは, 教科書本文を「このように軽い像をあなたはどのようにして作るのか」と普通の疑問文として解釈してしまうと, 筆者が読者に作り方を質問しているようで, しっくりこないことを確かめさせる。
- 語義5にある「(一般に)人は(誰でも)」を意味する, 特定の人をささない you の総称用法を確かめさせる。!で示された「話し手や相手を含めた一般の人々をさし, 訳さなくてもよいことが多い」という説明を確認させ, 辞書の2つの用例とその訳を使って理解させる。
- 改めて, 教科書本文を「このように軽い像を(人は)どのようにして作るのか」と解釈すると, 文脈にあうことを確かめさせる。以下, 本文の同じパラグラフに総称用法の you が続いて出ているのでチェックさせる。

Crown English Communication II, p. 89.

(dry lacquer), was ⁽¹⁾introduced by artists from Korea, who are thought to have made Ashura and the other *Hachibushu*.

(1) introduce ㊦ 2, p. 1019.

in·tro·duce ^{/ɪntrədʒú:s/}
 (㊦強勢は第3音節)
 [intro (中へ) duce (導く)] ((名) introduction)

— 動 (～s /-ɪz/; ～d /-t/; -ducing)

— ㊦ 1 〈人が〉〈人に〉〈人〉を紹介する «to»: 〈人が〉〈2人〉を引き合わせる, (相互に)紹介する; [[～ oneself]] 自己紹介をする ▶Mary introduced Tom to John. メリーはトムをジョンに紹介した/The two ladies haven't been introduced yet. その2人の女性はまだ, お互い紹介を受けていない/The new boss introduced herself. 新しい上司は自己紹介をした/May I introduce myself? 自己紹介してもよろしいでしょうか (≒《かたい話》) Allow me to introduce myself. 自己紹介をさせていただきます/Let me introduce you to everybody. あなたをみんなに紹介させてください。

2 〈人が〉〈…に〉〈新しいもの〉を導入する, 取り入れる; 持ち込む, 伝える, 広める «to, into» ▶introduce a new system to the office オフィスに新しいシステムを導入する/Dogs were introduced into the island from Europe. 犬はその島へヨーロッパから持ち込まれた。

- introduce といえば「人を紹介する」を思い浮かべがちだが, 物が目的語になっている場合の意味を調べさせたい。教科書本文が受け身になっていて, 主語(=他動詞 introduce の目的語)が this method であり, introduce したのが Korean (朝鮮出身の工芸家)であることを確かめさせる。
- 他動詞用法では, 主語や目的語にどのような名詞が来るか(選択制限)が山形かっこ〈 〉に入れて示されているのでチェックさせる。教科書本文では語義2の「導入する, 取り入れる; 持ち込む, 伝える, 広める」の意味で使われていると考えると, 「朝鮮出身の工芸家(= 〈人〉)によって脱活乾漆と呼ばれるこの方法(= 〈新しいもの〉)がもたらされた」となり, 文脈と合うことを確かめさせる。

Crown English Communication II, p. 92.

—3

The statue of Ashura you see now has survived nearly 1,300 years; the original colors have changed and cracks have developed on its faces. You may want to know what Ashura looked like at the time it was first created in 734. It is possible to find out. All you ⁽¹⁾need to do is to visit the Nara National Museum, where you can see a replica of Ashura in its original colors.

The replica wears a golden ornament, which shows some influence from ancient Greece. The sash over its ⁽²⁾shoulder may ⁽³⁾remind you of ancient India. The red skin color seems to suggest that Ashura had some connection with the sun god of ancient Persia.

The first Buddhist statues were made in Gandhara, or present-day Pakistan, in the first

Lesson 6—Section 3

(1) need ㉓ 2, p. 1278.

need /ni:d/ (㉓ knead と同音) [語源は「強制(力)」; →begin 語源] ((形) needless)

— ㉓ (㉓ ~s /-dz/; ~ed /-id/; ~ing) (㉓ 通例進行形にしない; ↓㉓ 1 語法)

— ㉓ 1 (人が) «…するために/…のために» 〈人・物・事〉を必要とする. …が欠かせない «to do/for»; 〈仕事などが〉〈能力・性格など〉を求める ▶I need your help [support] to finish it. それを終えるのにあなたの手助け[支え]が必要です/What do you need money for? 何のためにお金が必要なのですか/We need more time and people for the project to be successful. その計画を成功させるには時間と人手がもっと必要だ/I need you. 私には君が必要だ. 君にいてほしい/badly need a shave ≡ need a shave badly 是非ひげをそった方がいい (≡ be badly in need of a shave)/More study is needed to confirm the results. その結果を確認するためにはさらなる研究が必要だ/Sewing needs care. 裁縫には注意が必要だ/“When do you need this?” “I need it now [(話) yesterday]!” 「これ、いつ必要なの?» 「今すぐだよ」.

語法 ㉓㉓ need と進行形
未来表現で will が暗示する意志を弱めて自然の成り行きを暗示させる場合、未来進行形が用いられることがある ▶He won't be needing this anymore. 彼にこれはもう必要ないだろう.

2 [need to do] …する必要がある; …しなければならない. …する義務がある (㉓ 1) 否定文・疑問文は助動詞用法で書き換えることができる; ↓㉓ 1. (2) 必要性の程度は must や have to よりも弱い. (3) 話し手の判断する義務を表すことから、譲歩や主張を強調する表現として使われる; →may (読解のポイント) ▶We need to take a break. 休憩する必要がある (×We need take … としない)/I work when I need to. 必要なときは働け (㉓ 文脈から明らかな場合 to の後が省略されることがある)/If that doesn't work, you'll need to get a lawyer. もしそれがうまくいかないようなら弁護士を頼んだ方がいい (㉓ will を伴って命令・指示を間接的で穏やかな響きにする)/All you need to do is [You only need] (to) tell the truth. あなたは真実を話せばいいだけ (㉓ to を省略するのは《くだけて》)/I didn't need to get up early. 私は早起きをする必要はなかった (㉓ 《書》では実際に早く起きたかどうかは不明だが、《話》では need に強勢がある場合「早く起きたがその必要はなかった」、強勢がない場合「不必要とわかっていたので早く起きなかった」の意となる; ↓㉓ 2).

- 基本的な動詞であり、発信活動に使うためのコロケーションを調べさせたい。教科書本文が need to do と to 不定詞を従えているので、{need to do} の文型表示のある㉓ 語義 2 に導く。
- 教科書本文と同じコロケーションが辞書の第 4 用例になっているのでチェックさせ、「国立奈良博物館に行きさえすればいい」という意味になることを確かめさせる。[]内に示された You only need という表現に置き換え可能であること、(to) となっていることから to が省略される場合があること、! による注記から省略されるのはくだけた表現であることも確認させる。
- 語義 1, 2 の太字用例は、どれも need が使われる典型的なコロケーションを示しているので定着させたい。

(2) shoulder v 1, p. 1739.

shoul-der /ʃouldə/ (㉓ -ou- は /ou/) [語源は「平たいもの、肩甲骨」]

— ㉓ (㉓ ~s /-z/) 1 ㉓ (片方の)肩 (㉓ 両肩を示す場合は ~s; →arm¹ ㉓, body ㉓, neck ㉓); [[~s]] 上背部 ▶have stiff shoulders 肩が凝っている/walk with a child on one's shoulders 子供を肩車して歩く/sling a bag over one's shoulder (無造作に)バッグを肩に掛ける/tap [pat] him on the shoulder 彼の肩をポンとたたく/look [say] over one's shoulder (顔だけうしろに向けて)ふり返って見る[言う]/drop [droop] one's shoulders (落胆して)肩を落とす/shrug one's shoulders 肩をすくめる (㉓ 「知らない・気にしない」の意味を表すぐさ).

- 語義 1 が「(片方の)肩」となっており、! に記されているように両肩の場合は複数形になることをチェックさせる。
- 教科書本文が over its shoulder となっていることから片方の方であることに注意させる。辞書の第 3 用例を参照させ、over one's shoulder が「肩の上に、肩にかかるように」となることを確かめさせ、教科書のこの部分は「肩にかかる帯」となることを理解させる。

(3) remind ㊦ 3, p. 1587.

re·mind* /rɪˈmaɪnd/
 [re (再び) mind (気をつける)]
 一 動 (～s /-dʒ/; ～ed /-ɪd/; ～ing)
 一 ㊦ **1 a** [remind A about B/of B] 〈人が〉A〈人〉にB〈しなければならないことなど〉を思い出させる, 気づかせる ▶ Sarah reminded me about this Friday's meeting. セラは私に今週金曜の会議を忘れないようにと言った/Thank you for reminding me. 思い出させてくれてありがとう。
b [remind A to do/that 節/wh 句] 〈人などが〉A〈人〉に…することを[…か]を, …かを気づかせる ▶ Remind me to call Cathy tomorrow. 明日キャシーに電話することを念を押してくれ/Her call reminded Tom that he had his homework to do. 彼女からの電話でトムは宿題をしなくちゃいけないのを思い出した/I always remind myself to be patient. 私はいつも自分自身に我慢強くしなければならないと言いつつ聞かせている。
2 [remind A of B/wh 節] 〈物・事が〉A〈人〉にB〈過去の出来事など〉を[…か]を思い出させる ▶ The song reminded me of my mom. その歌を聞いて母のことを思い出した。
3 [remind A of B] 〈人・物・事が〉A〈人〉にB〈別の人・物・事〉を思い起こさせる, 連想させる ▶ He reminded me of my father. 彼は私の父によく似ていた/What actor does he remind you of? 彼, 俳優の誰かに似ていないかしら。

- ・ 文型表示から語義 1a, 2, 3 が「目的語＋of」の形が取れることを確かめさせる。語義 1a では主語になる名詞(選択制限)を示す〈 〉で囲った部分に「人」と記されているが, 教科書本文の主語は sash (帯)なので, 語義 2, 3 を参照させる。
- ・ 語義 2, 3 において, 〈 〉に入れて示されている of の後に来る名詞を比較させる。教科書本文では〈過去の出来事〉を思い出させるというより, 日本の仏像なのに ancient India (古代インド)という〈別の物〉を思い起こさせる, という語義 3 の意味で解釈の方が文脈に合っていることを確認させる。

Crown English Communication II, p. 93.

century, under the influence of ancient Greek art. In the following centuries, Chinese empires came into (1)contact with Central Asia, the Middle East and the West. Western influence led the Chinese to look at art in a new (2)way, which eventually had a great (3)impact on Japanese art.

(1) contact v 1, p. 413.

con-tact* /kɑː(ɪ)ntækt|kɒn-/
 [con (共に) tact (触れる)]
 一 図 (㊟) ~s /-ts/) 1 ㊟ «…との/…間の» 連絡, 交渉, 出会い: [[しばしば~s]] (親密な) 交際, 親交, 付き合い «with/between» ▶He doesn't have much *contact* with his father. 彼は父親とあまり連絡をとっていない/I still *keep [stay] in contact* with my friends. 私は友人と今でも連絡をとりあっている/*make [lose] contact* with A A (人)と連絡をとる[がとれなくなる]/He *put me in contact* with another doctor. 彼は私に別の医者を紹介した/*come into [get in] contact* with strangers 見知らぬ人たちと出会う/*close [regular] contact* with the villagers 村民との親密[定期的]な交流.
 2 ㊟ «…との/…間の» 接触, 触れること (touch) «with/between» ▶*contact* points [areas, surfaces] 接触点[部分, 面]/Protect your skin from *coming into contact* with chemicals. 化学薬品が肌につかないように保護してください/His foot was almost *in contact* with the ball. 彼の足はもうちょっとでボールに触れるところだった/physical *contact* 身体的接触[肌と肌の触れ合い]/*on contact*

- 教科書本文が came into contact with ... となっているのをチェックさせた上で, 辞書の語義 1 (第 5 用例) と語義 2 (第 2 用例) の両方に同じコロケーションが用いられていることを確かめさせる。
- 語義 1 が「出会う」という抽象的な接触を, 語義 2 が「つく」という物理的な接触を意味していることを理解させ, 教科書本文では「中国の(歴代)帝国が中央アジア, 中央, そして西洋と出会う, 交流を持つ」という意味になることを確かめさせる。

(2) way¹ v 1, pp. 2126–27.

way¹* /wei/ (㊟ weigh と同音)
 [語源は「行く, 乗り物で運ぶ」]

【行動】図 1, 2 方法 6 (…の)点 8 (個人の)やり方
 【進行】図 3 道, 通路 4, 5 方向 7 道のり

一 図 (㊟) ~s /-z/) 1 ㊟ [a way to do/of doing] …する 方法, やり方: [[(in) a ... way] …なふうに (㊟) 限定詞や ㊟ を伴って副詞的に; → some ㊟ 1 [文法] ▶There are many *ways* to relax. リラックスするにはいろんなやり方がある/We have to *find a way* to end the strike. ストを終わらせる方法を見つけないければならぬ/[I have [There's] *no way* of knowing that. それを知るすべがない/E-mail is a *way* of communicating [×communication]. Eメールはコミュニケーションの手段である (㊟「…の方法, 手段」 という場合, a way of の後には通例 ㊟名) を用い, ㊟を用いない; a means of communication とすることは可)/see things *in a different way* 物事を違った目で見ると (≠ see things differently) (㊟ way は複数形も可能: The accident has affected different people *in* different *ways*. その事故はいろんな形でさまざまな人々に影響を与えている)/*In what way* is your new album different from your debut album? 新しいアルバムはあなたのデビューアルバムとどう違うのですか/Sometimes he speaks *in a way* that hurts her. ときどき彼は彼女を傷つけるような言い方をする/*Do it my way* or get out! おれの言う通りにやれ, でなきゃ出て行け/(*In*) this *way* he became famous. こうして彼は有名になった (㊟ in はしばしば省略され, (話) では特にその傾向が強い)/*in one way* or *another* あれこれ手を尽くして.

- 見出し語横にある(!weigh と同音)という発音注記を参照させる。weigh (p. 2135)は教科書 88 ページに新出単語として出てきたもので, way とは綴りがかなり違うが, 発音が同じなので注意させる。

weigh* /wei/ (㊟-gh は発音しない; way と同音)
 [語源は「(車で)運ぶ」] ((名) weight)

一 動 (~s /-z/; ~ed /-d/; ~ing)
 一 ㊟ 1 [[~ C]] (人・物が) C の重さ [目方] がある (㊟(1) C は ㊟ ㊟. (2) 通例進行形にしない) ▶How much [What] do you *weigh*? 体重はどのくらいですか/The suitcase

- {(in) a ... way} の文型表示のある語義 1 に導く。ウィズダムでは語義・文型・用例などは, 原則頻度順に挙げられている。よって, 高頻度語である way の語義 1 に挙げてあるこのパターンは, よく使われるチャンク・意味であることを確認させる。
- 辞書の第 5 用例の訳を参考にして, 教科書本文が「新しい方法[目で芸術を見る]」という意味になることを確かめさせる。

(3) impact v 1, p. 974.

im-pact* /ɪmpækt/ (㊟ ㊟ と ㊟ で強勢が異なるので注意) [原義は「押しつける」]

一 図 (㊟) ~s /-ts/) 1 ㊟ [通例単数形で] «…への» (社会的・精神的) 影響, 衝撃, 効果 «on, upon» ▶the social *impact* of science 科学の社会的影響/The meeting had [made, ×caused] a great *impact* on the future of our country. その会議は国の未来に大きな影響を与えた.

- [通例単数形で] という用法指示をチェックさせ, 教科書本文も単数形になっているのを確かめさせる。
- 二重山形かつ <> を使い, 「…への影響」という場合は前置詞 on, upon を用いると記されているのをチェックさせる。教科書本文と同じコロケーションを使った辞書の第 2 用例で用法・意味を確かめさせ, 教科書のこの部分は「最終的には日本の芸術に大きな影響を与えることとなった」という意味になることを確認させる。
- 辞書の第 2 用例から, 「大きな影響を与える」と表現する場合, 教科書本文と同じ have の他に make は使えるが, ×cause は使えないと説明されているのに注意させる。

Crown English Communication II, p. 94.

—4

Ashura is very different from the other *Hachibushu*. For one ⁽¹⁾thing, he has three faces and six arms. For another, he is wearing a sash, while the other statues are wearing armor. But above all, Ashura looks lifelike, with human ⁽²⁾expressions on his faces. In fact, he seems to have something on his mind—but what is it?

Harashima Hiroshi, who studies facial expressions, has an idea. He calls your ⁽³⁾attention to the eyes in Ashura's three faces. If you look at the three faces from the left to the right and to the front, you will notice that the eyes go up. Harashima says that this change shows Ashura becoming mature. The left face shows Ashura as a young angry man. His right face expresses pain and regret. His central face shows repentance.

As you stand ⁽⁴⁾face to face with Ashura, you may find yourself wondering what he is trying to

Lesson 6—Section 4

(1) thing v1 for one thing ..., (for an- other (thing) ...), p. 1965.

for one thing ..., (for another (thing)...) * (くだけて) 1つには…だ(もう1つには…だ) (理由の説明に用いる) ▶The music is not what I expected. For one thing, it is too loud. その音楽は期待はずれだ. その理由の1つはうるさすぎるのだ.

- 成句に名詞が含まれる場合、通例は名詞の所に成句が出ていることを踏まえた上で、thing を調べさせ、意味を確認させる。
- (理由の説明に用いる) という注記をチェックさせ、教科書本文では「阿修羅像がほかの八部衆とは違っている理由」が説明されていることを確認させる。
- 「もう1つには」に当たる for another で始まる文が、教科書本文では次行に出てくることを確かめさせ、教科書のこの部分は「ひとつには、彼は3つの顔と6本の腕があり、もうひとつには(八部衆とは違って) 帯を身につけている」と言っていることを理解させる。

(2) expression v 2, pp. 669–70.

2 [抽象的には] (顔の) 表情, 顔つき ▶facial expressions 顔の表情/the expression in A's eyes A (人)の目つき/wear a blank expression 無表情である/Ann was standing there with an expression of surprise on her face. アンは驚きの表情を浮かべてそこに立っていた/Al's expression suddenly changed when he saw Mary. メリーに会った時アルの表情は突然変わった.

- 教科書本文では expressions と複数形になっていること、on his faces と顔について述べていることから、「(顔の)表情, 顔つき」を意味する語義2をチェックさせる。
- 辞書の第4用例を参照させ、教科書本文と同じように expression の前に with が用いられていることや、on ... face という句が続いていることを確認させる。用例訳から「…な表情を浮かべて」という場合に with が使われることに注意させ、教科書のこの部分は「人間的な表情を顔に浮かべ」という意味になることを理解させる。

(3) attention v 1a, p. 126.

at-tention* /ə'tenʃ(ə)n/ [-→attend]

— (国) (s /-z/) 1 a «…に対する» 注意(力); 関心; 興味 «to» ▶You should pay attention to how much you eat. 食べる量に注意した方がいいですよ/John didn't pay much [paid no, didn't pay any] attention (to detail). ジョンは(細かい点には)あまり[少しも]注意を払わなかった/turn one's attention back to the TV テレビに再び注意を向ける/give A one's (full [undivided]) attention Aに(細心の)注意を払う/focus attention on A Aに注意を注ぐ/attract [draw, get] public [media] attention 世間[マスコミ]の関心を引く/draw [call] (A's) attention to B Bに(Aの)関心を向けさせる/divert [distract] attention from A Aから注意をそらす/hold [keep] A's attention Aの関心を引きつけておく.

- 1a の第7用例が、教科書本文と同じ call や to を使っているのをチェックさせる。用例訳を参照させ、教科書のこの部分は「阿修羅像の3つの顔の目に(あなたの)注意を向けさせる[向けるよう促す]」という意味になることを確認させる。
- 日本語の「注意」という名詞を動詞と組み合わせる場合、「注意する, 注意を払う, 注意を向ける」といったコロケーションが思い浮かぶのと同じように、attention をどんな動詞と組み合わせるのが英語として自然なのかを辞書用例を使ってチェックさせるとよい。特に太字用例になっている動詞とのコロケーション(pay attention, turn one's attention, attract attention など)はスピーキングやライティングに生かせる重要表現として確かめさせる。

(4) face I face to face, p. 677.

face to face* «…と» 向かい合って «with» ▶meet A face to face A (人)と向かい合う/come face to face with A A (人)に直接[突然]会う; A (問題など)に直面する/bring A face to face with B A (人)をB (問題・現実)に直面させる.

- 成句義だけでなく、共に使われる前置詞(連語)が二重山形かつ <> で示されているのでチェックさせる。「<…>向かい合って」と表現する場合は with を使うと記されているのに注意させ、教科書本文では「阿修羅像と向かい合って立つ」という意味になることを確かめさせる。
- 辞書の第2, 3用例を使って、実際に向かい合うのではなく、比喩的用法(「直面する」)もあることに触れるのもよい。

Crown English Communication II, p. 95.

tell you. And so have many others over the years.

People have worshipped in front of him to repent and to pray for purification. Like a ⁽¹⁾gentle friend and teacher, Ashura has guided them through this process. Perhaps one of the reasons why so many are ⁽²⁾attracted to this statue after nearly 1,300 years is that it gives people a sense of healing which is much needed in an ⁽³⁾age of uncertainty.

(1) gentle α 1, p. 796.

gen·tle* /dʒɛnt(ə)l/ [語源は「同じ種族 (genus) の」]
 ((名) gentleman, (副) gently)

— 形 (～r; ～st) 1 <人・性質などが> «…に» 優しい, 親切な, 気配りした «with, to, on» (be with は感情の対象, to は動作の対象, on は接触を意識する; →kind¹ 類義); 物静かな ▶ a kind and gentle man 思いやりのある優しい男性/ Be gentle with Tim. ティムに優しくね/a gentle giant 優しい大男/gentle reader 寛大な読者よ (著者が呼びかけに用いる)/This ingredient is gentle on [to] the skin. この成分は肌に優しい.

- 教科書本文では a gentle friend and teacher と人を修飾していることから, どのような語を修飾するか(選択制限)を示した山形かっこくくに「人・性質などが」と記された語義 1 に導く。
- kind¹P という参照指示があるので, 「親切な」を意味する P コラム(p. 1060)をチェックさせる。それぞれの語が持つ意味合いを確かめさせるとともに, 叙述用法になった場合にとることのできる文型にも違いがあるので, 構文チャートで確認させる。gentle は仮主語の it を使った形や, to 不定詞を後ろに従える形では用いられないことに注意させる。

類義 ▶ kind と gentle, thoughtful など
 kind は「親切な」という意の最も一般的な語。思いやりがあり, 優しく友好的であること。gentle は慎重で人を傷つけない穏やかな親切さのこと。thoughtful は贈り物や親切行為など, 相手を喜ばせるためにその感情や希望を思いやる親切さを示し, お礼を述べる際にも好まれる。considerate は相手を不快にさせないために感情や希望に配慮する親切さ。good は困った時に助けてくれる親切で優しい人を形容する語。nice は気さくで感じのよい親切さを表すくだけた語(↓構文チャート)。

構文チャート	thoughtful	kind ¹	considerate	good	nice	gentle
it is ~ of A to do	○	○	○	○	○	
A is ~ to do	○	(比較的まれ)	(まれ)	(まれ)	(まれ)	
it is ~ to do	○	○	○			
it is ~ that ...						

(2) attracted α, p. 127.

at·tract* /ə'trækt/ [at (…の方向へ) tract (引く)]
 ((名) attraction, (形) attractive)

— 動 (～s /-ts/; ～ed /-id/; ～ing) (be ~ed のような分詞形容詞用法については →attracted)

at·tract·ed /-id/ 形 [(be ~ to A)] <人が> A (異性など) に魅了されて, 引きつけられて.

- 教科書本文は are attracted となっており, 「be 動詞+過去分詞」の受動態か, 「be 動詞+形容詞」なのか判断が付きにくいことを確かめさせる。α の attract (p. 126) を調べさせ, 活用形に続いて (!be ~ed のような分詞形容詞用法については →attracted) という注記があることを確認させ, attracted という α の見出し語を参照させる。紙の辞書なら見開きの両ページに連続して出ているので, すぐに調べられる。このように, よく使われる分詞形容詞が別の見出し語になっている場合は, 参照指示があることに注意させる。
- 用法指示の [be ~ to A] が教科書本文の形と合っていることから, 形容詞用法であることを確かめさせ, 教科書のこの部分は「それほど多くの人々がこの像にひかれる[魅了される]」という意味になることを確認させる。

(3) age v 5, p. 43.

5 ㊦ [通例単数形で; 修飾語を伴って; しばしば A-] (歴史上の) 時代, 期 ▶ the space age 宇宙時代/the golden age of Westerns 西部劇の黄金時代/the Dark Ages (ヨーロッパ中世の) 暗黒時代/in an age of information technology IT 時代に/in an age when [where, in which] spacecraft take us to the moon 宇宙船で人類が月に行く時代.

- 教科書本文で an age of uncertainty と不定冠詞を伴っていることから, X であり, 用法指示に [通例単数形で] と記された語義 5 に導く。
- 用法指示ではさらに [修飾語を伴って] と記されているのに注意させる。教科書本文では of を使って, 後ろから前にある名詞の age を修飾していることを確かめさせる。辞書の第 4 用例が教科書本文と同じ in an age of ... という形を使っているのでチェックさせ, 教科書のこの部分は「不確実な時代に(おいて)」という意味になることを理解させる。